

## 第6章 基本理念と目指すべき将来像

### 1 基本理念

上下水道事業は、快適な暮らしと公衆衛生の向上、生活環境の改善を使命とし、これまで市域の拡大や急激な人口増加に対応して拡張事業を進め、安全・安心な水道水を安定的に供給するとともに、公共用水域の水質保全などに努めてきました。

上下水道施設は、市民生活や経済活動に必要不可欠なライフラインであり、これまで長い年月をかけて、先人たちが築き上げてきた貴重な財産です。

しかし、今後は水需要の減少に伴う料金収入の減少と施設の老朽化に伴う更新費用の増大により、厳しい経営環境が想定される中、災害対策やサービスの向上など取り組むべき多くの課題を抱えています。

これらの課題に対応し、いつまでも暮らしに寄り添う安全で安心して使える上下水道を将来に引き継いでいくことが重要であると考えています。

そこで、本ビジョンの将来への方向性は、上位計画である「えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）」で掲げている「いつまでも暮らしやすく、便利で快適なまち」の実現のため、上下水道は、あらゆる人が健康的に安心して暮らす上で必要不可欠であることから、基本理念を以下のように定めます。

### 基本理念

いつまでも暮らしに寄り添う上下水道

### 2 目指すべき将来像

基本理念に掲げた役割や使命を果たすために、「安全」、「強靭」、「持続」の3つの視点から、本ビジョンの目指すべき将来像を以下のとおり設定します。これら3つの視点は基本理念の実現のために必要な要素であり、3つの視点を通じて最適な事業運営を追求し、今後の施策を展開していきます。

### 目指すべき将来像



## (1) 安全：いつまでも安心して使える、安全で信頼される上下水道

安全の観点からみた目指すべき将来像は、水源の水質保全、適切な浄水処理、管路及び給水装置における水質の保持や衛生対策が徹底され、工場・事業場排水の適正管理、市民生活や経済活動による汚水の確実な収集、適切な下水処理による水循環により、いつまでも安心して使える、安全で信頼される上下水道が実現していることです。

長期的な上下水道事業の将来像は、以下に示す状況が理想です。

### 水道

- 水源から蛇口までに存在する様々な水道水へのリスクを危害原因から分析し、それらを継続的に監視・対応する水質管理システムにより、水質管理水準を向上させ、水道水の安全性が高められている。
- 水源の監視に十分な注意を払うことで水源水質の変化に対応し、継続的な取水量の確保と適切な浄水処理により、良質で安全な水道水を安定供給している。
- 配水池・配水管を常に清浄な状態に保ち、配水管網の流量や水圧等を常時監視して配水コントロールを行い、清浄な水道水を安定供給している。
- 水需要の減少などの変化に対応できる水道システムを構築し、配水規模に関わらず水道水を安定して供給している。

### 下水道

- 下水道施設の維持管理や浄化センターの運転管理を行い、将来にわたり適切に下水を処理することで石狩川の水質を保全し、快適な水環境を確保している。
- 下水道使用者に下水道の目的が理解されることにより、工場や事業場からの汚水の排出基準が遵守され、公共用水域の安全性が確保されている。
- 管路の改築や修繕が適正に実施されて、不明水が減少し大雨時でも晴天時と同じように安心して下水道が使われている。

## (2) 強靭：いつまでも強く、たくましい上下水道

強靭の観点からみた目指すべき将来像は、老朽化した施設の計画的な更新により施設の健全度が保たれ、平常時の事故率は維持もしくは低下し、さらに、自然災害に対しては、施設の健全度が保たれ、上下水道施設の耐震化やバックアップ体制、他事業体等とのネットワーク網を構築することにより、自然災害等による被災を最小限にとどめるしなやかな上下水道が実現され、上下水道施設が被災した場合であっても、迅速に復旧できる、強くたくましい上下水道が構築されることです。

長期的な上下水道事業の将来像は、以下に示す状況が理想です。

## 水道

- 基幹管路、浄水場、配水池の全てが、電気・機械・計装設備も含めて耐震化され、基幹管路以外の管路や給水管についても、適切な材質や仕様が採用され耐震性が向上している。
- 適切な施設の更新により、漏水など水道事故の発生を抑制し、また、バックアップ機能の整備により、継続して給水できるシステムが構築されている。
- 耐震化されていることで、想定される最大規模の地震が発生しても、施設の機能に重大な影響が及ぶことなく、水道水の供給が可能となっている。
- 災害時や緊急時において配水池容量や応急給水設備、給水車等が確保され、必要最低限の飲料水や生活用水が供給できる体制が構築されている。
- 近隣及び遠隔地の事業体と相互応援協定を結ぶなど、災害時や緊急時の給水体制が整備され、効率的な訓練が行なわれている。
- 市民とのコミュニケーションにより、災害時や緊急時の応急給水拠点や地震対策の必要性が認識され、市民との効率的な給水活動が行なえるよう共同訓練が実施されている。

## 下水道

- 処化センター・ポンプ場施設、下水道管路全ての下水道施設の耐震化などの災害対策が進み、大規模災害発生時にも、被害を最小限にできる状況になっている。
- 民間事業者や関係機関との連携が強化され、災害時における緊急対応・応急復旧対応をより効果的に実施できる体制が確立している。
- 雨水施設が常に健全に保たれていて、突発的な大雨でも浸水被害が生じにくい状況になっている。

### (3) 持続：いつまでも皆さまの近くにありつづける上下水道

持続の観点からみた目指すべき将来像は、人口や水需要が減少した状況においても、料金収入等による財源や上下水道に関する技術・知識を有する人材が確保され、近隣事業体との業務の共同化など広域連携による最適な事業形態の実現などにより、健全かつ安定的な事業運営がなされ、安心で安全な水道水を安定供給できる上下水道がいつでも市民の皆さまの近くにありつづけることです。

長期的な上下水道事業の将来像は、以下に示す状況が理想です。

水道

下水道

- 上下水道の必要性や健全な上下水道事業の在り方が市民に理解され、経営戦略などに基づき、安定した事業経営が継続している。
- 適切な維持管理のもと、長期的視点に立った施設更新需要の把握や必要な財源の裏付けにより、適切な資産管理（アセットマネジメント）を実施し、計画的な更新により健全で信頼性のある事業経営をしている。
- 新しい技術や工法などを取り入れて、更新に向けた調査・研究に取り組んでいる。
- 広域連携が進展し、また、上下水道事業に精通する職員が適切に配置され、上下水道サービスの信頼を支えるとともに、人員の確保と技術継承・人材育成が計画的に行われている。
- 上下水道サービス向上や広報、情報公開が進み、市民とのコミュニケーションにより事業の在り方が理解され、上下水道への安心と信頼が築かれている。
- 水需要に応じた施設の最適化や、より良い浄水処理方式や汚水・汚泥処理方式により、全ての市民に安全な水道水が必要量供給され、安心して下水道が使用されている。
- 地球環境に配慮し、また経営効率を高めるため、位置エネルギーを最大限活用した自然流下配水方式を拡大している。また、ポンプ等の機械・電気設備は、より一層省エネルギー化が図られ、上下水道施設で使用する資機材や浄水処理・下水処理過程で発生する汚泥等の循環利用が継続して行われている。

## 3 江別市上下水道ビジョン体系図

